

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【城南小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	ドリルパーク・スタディサプリ等を継続して活用していく。活用方法を校内で共通理解し、全校で取り組む。週3回行う、朝の学びの時間を活用し、児童の学習履歴を確認していく。学期に1度、個別面談を行い、個別に児童の学習課題を考える時間を設定し、自ら課題意識をもって学習に取り組めるようにする。また、知識・技能が確実に定着できる家庭学習への取り組みや、家庭との連携について、よりよい方策になるように研修の時間を活用して検討していく。
思考・判断・表現	引き続き、児童が学習課題に取り組む際の、ミライシードのオクリンク機能等を活用していく。その際、評価の観点を示し、児童の思考のプロセスを授業内で評価する。また、プレゼンテーション能力向上のために声の抑揚や話すスピード、間の取り方などの基本的なスキルを指導する。また、読書にも力を入れ、本をたくさん読むことで、思考・判断・表現の力を高めていく。
主体的に学習に取り組む態度	国語、算数における来年度に使える資料やモデルをファイリングし、授業で児童が迷いなく学習活動に取り組めるようにする。また個に応じた指導をするための資料やワークを整えていく。全ての授業において、児童とともに必要感のある課題を設定し、解決の見通しをもたせ、自力解決する場を設定する。また、授業中に必ず自己の振り返りができる時間を設定する。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	令和4年度全国学力・学習状況調査及び令和4年度市学習状況調査の自校結果より国語・算数の「知識・技能」において3pt向上させる。	⇒ ドリルパーク・スタディサプリ等を活用し、漢字や基本的な計算等の反復、習熟に取り組む。その際、児童の学習履歴を確認し、学期に1度、個別面談を行い、個別に児童の学習課題を考える時間を設定する。
思考・判断・表現	令和4年度全国学力・学習状況調査及び令和4年度市学習状況調査の自校結果より国語・算数の「思考・判断・表現」において3pt向上させる。	⇒ 児童が学習課題に取り組む際、ミライシードのオクリンク機能等を活用する。その際、評価の観点を示し、児童の思考のプロセスを授業内で評価する。また、プレゼンテーション能力向上のために声の抑揚や話すスピード、間の取り方などの基本的なスキルを指導する。
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度全国学力・学習状況調査及び令和5年度市学習状況調査「これまでの授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の質問事項において、肯定的な回答の割合を90%以上にする。	⇒ 全ての授業において、児童とともに必要感のある課題を設定し、解決の見通しをもたせ、自力解決する場を設定する。また、授業中に必ず自己の振り返りができる時間を設定する。

<小6・中3>(4月~5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	国語の「知識・技能」の本校の正答率は、令和4年度の正答率と比較して、5年生は9pt上回ったが、3、4、6年生は1~10pt下回った。算数の「知識・技能」の本校の正答率は、令和4年度の正答率と比較して、5年生は7pt、3、4年生は少々上回ったが、6年生は下回った。	B
思考・判断・表現	国語の「思考・判断・表現」の本校の正答率は、令和4年度の正答率と比較して、3年生は5pt、その他の学年は少々上回った。算数の「思考・判断・表現」の本校の正答率は、令和4年度の正答率と比較して、4年生は4pt、5年生は12pt上回ったが、3、6年生は下回った。	B
主体的に学習に取り組む態度	令和5年度市学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問事項において、肯定的な回答の割合は5年生が94%、6年生が93%と市の平均と90%を上回った。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	国語では、2つの情報の関係を理解したり整理したりすることに課題がみられた。漢字の知識の定着にも課題がある。算数では、乗法の計算や正三角形の意味や性質を問われる問題の正答率は高かったが、加法と乗法の混合した計算や台形の意味や性質を問われる発展的な問題の正答率は低かった。
思考・判断・表現	国語の「書くこと」の正答率が低く、図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表すことができない児童が多いことがわかる。算数でも、記述式の問題の正答率が低くなっている。特に、「図形」領域や「データの活用」領域において課題がみられた。
主体的に学習に取り組む態度	「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の質問事項において、肯定的な回答の割合は90.2%で、主体的に学習に取り組もうとする児童が多かった。引き続き、必要間のある課題を設定し、自力解決する場を多く設定していきたい。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
小3	国語:市の平均と比べると正答率が低くなっている。特に、言葉の特徴や使い方に関する事項や読むことに課題がある。 算数:市の平均と比べると正答率が低くなっている。特に、数と計算、測定・測定の領域に課題がある。	小4	国語:どの領域においても、市平均より低くなっている。学習内容の定着が課題である。 算数:市の平均と比べると正答率が低くなっている。特に、数と計算、変化と関係の領域に課題がある。
小5	国語:どの領域においても、市平均より低くなっている。 算数:変化と関係、データの活用の領域で市平均より高くなっている。図形の領域では課題がある。 社会:市の平均と比べると正答率が低くなっている。 理科:市の平均と比べると正答率が低くなっている。	小6	国語:どの領域においても、市平均より低くなっている。 算数:市の平均と比べると正答率が低くなっている。 社会:現代社会の仕組みや働きと人々の生活の領域で市平均より高くなっている。その他の領域では課題がある。 理科:粒子を柱とする領域で市平均より高くなっている。その他の領域では課題がある。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし